

<可愛くてタフ>道端や空地のあちこちで5月の初めからニワゼキショウ(右写真)が花を咲かせています。径5~6mmほどの6弁の花で場所によって白、赤紫、青などさまざまな色のもの



が咲いています。細長い茎の先に付く花もまん丸い小さな実も可愛らしい植物です。姿からは思い至らないほどのタフ(強靱)さで、刈り取られてもほんの2週間ほどで再び花が見られます。ニワゼキショウに負けず劣らずあるいはもっと“ど根性”なのがユウゲショウでしょうか。路傍のアスファルトの隙間に生えて花を咲かせているものすらあります。4弁のピンクの花で径は1cmほどです。昼間は閉じていて午後遅くから花が開くためこの優雅な名前があります。

<ユウゲショウ>→



<植え込みにも目を>雑木林や野辺でなく身近な植え込みにも四季の移り変わりがあります。とりわけ春先からは色鮮やかな花々が順に咲いてきました。ツツジ次いでシャクナゲが終わりこれから当分の間はキンシバイが主役です。かなり長い間目を楽しませてくれたシラン(紫蘭)の花もそろそろお仕舞です。紫だけでなく白の花も艶やかです。シランは根っこ(偽球茎)も役に立ち白及(びやくきゅう)という止血や痛み止めの漢方薬になります。

<キンシバイ>→



<命の営み>6月になると植物だけでなく昆虫や小鳥たちの世界もなお一層活気に満ちます。小鳥のヒナの誕生、ときにはヒナの鳴き声だけですが、には声援を送りたくなります。またチョウやト



<シラン：紫>



<シラン：白>



ンボの羽化は神秘の世界で“力漲(みなぎ)るいのち”を感じます。今、林の中でヒオドシチョウの羽化が真っ盛りです。羽化したあと真っ赤な液をポトポトと出します。“鳴いて血を吐くホトトギス”ならぬ“血を吐き羽化するヒオドシチョウ”ですね。そういえばホトトギスのよく透る鳴き声が聞こえるようになりました。“夏は←<ヒオドシチョウ> 来ぬ”です。(文と写真：松本正勝)